

羅 針 盤			学 校 関 係 者 評 価 (○：学校評議員からいただいた指導助言等、◎：次年度に活かす内容や方向性)			達 成 度		
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目				①	②	総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	PTAが関連する総会や事業に参加した保護者の90%以上が満足している。 ----- 学部・学級便りやWebページ等から「子どもの学習の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が答えている。 ----- 学校行事や説明会等の学校公開の参加者及びWebページの閲覧者が月平均1500名以上である。 ----- いじめの認知の仕方について保護者の90%以上が理解している。	○ 学校評価一覧表の自己評価、外部アンケートともに高評価であり、貴校が素晴らしい教育活動を行い、保護者等から信頼される学校づくりが進められていることがわかる。 ○ 社会環境の制約がある中、オンライン交流などできる限り活動の幅を広げようとしているのは素晴らしい。 ○ コロナ禍ではあったが、藤特祭の取組が素晴らしかった。高等部生徒の力強い藤特ソーラン、小・中学部の皆さんの元気のよい合奏発表や素晴らしい作品展示などを拝見し、児童生徒、そして職員の皆さんが頑張っている様子がうかがえた。	◎ コロナ禍ではあるが、新しい生活様式に合わせた活動を、児童生徒や保護者らと協力しながら工夫し続けていく。 ◎ ICT等を駆使し、ペーパーレスやデータを基本としたやりとりなど、資源や手間を省いた取組を研究し続ける。 ◎ 基本的にどの行事も客を招くという部分では限界があるため、その都度最適、最大の人に参加いただけるように、実施方法などを工夫していく。	A	A	A	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	児童生徒全員について、ケース会議又はサービス等利用計画作成のための会議を実施し支援につなげる。						
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	新規の10件以上の小中学校等を訪問して助言を行うとともに、年3回以上の研修の機会を提供している。	○ 具体的な指導方法等について、貴校専門アドバイザー様より丁寧にご指導いただき、大変参考になった。来年度も、引き続きお願いしたい。	◎ 新規の訪問等は達成したので、今後は更に学区内の教育支援について積極的に関わっていく。	B	A	A	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	95%の保護者が「個別の指導計画」の指導内容についてお子さんの実態に合ったものであると答えている。	○ 小学部の時から自己決定し、自分なりの表現で伝えることを取り入れていることは、とても素晴らしい。中学部でキャリア教育として作業学習の種類を増やし、興味のある活動から選べたり体験したりする機会があることは、将来のことを考えるきっかけになっている。高等部の段階で「レジリエンスを子どもたちに身に付けさせたい」をテーマに掲げられていることは、卒業後の生活を考える必要な取組である。	◎ 次年度以降、より小中高の教育活動の流れや一貫性を出していくよう、本人・保護者や関係機関が教育課程により参画してもらえるようにしていく。	A	A	A	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	校内研修のテーマに沿った事例検討と研修内容の共有を月1回以上行う。						
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	感染症対策や学校安全について、学校の情報提供や対応に95%以上の保護者が満足している。	○ 先生方の日々の業務を軽減するためのオンライン化、ペーパーレス化には、大賛成です。	◎ 今後、児童生徒や教員1人に1台の端末が配置されていくにあたり、授業のスタイルや校務の進め方などにも大きな改善が必要となるため、積極的に研修等を進められるようにしていく。	A	A	A	
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	95%以上の職員が、災害時の対応マニュアルをわかり易いと答えている。					A	B
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	小学部から中学部、そして高等部へと一貫した指導計画を立案し、内容を100%の教員が説明できる。	○ 小中高の一貫したキャリア教育は、児童生徒の社会参加を考える上で、大変有効なため、ぜひ今後も推進してもらいたい。 ○ キャリア教育として作業学習の種類を増やし、興味のある活動から選べる、また学校を離れて体験する機会があることは、将来のことを少しずつ考えていける良いきっかけになっている。	◎ 各部主事を中心に教育課程の一貫性について研究していく。まずは農園芸に係る学習活動の計画を立案し、各部でどのように取り組んでいくかについて具体化していく。 ◎ 作業学習以外の教科等も全てキャリア教育であることについて全職員が理解するとともに、面談や保護者会などの機会に説明をする。	A	A	A	
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	学部間や社会への移行について早期から本人及び保護者と協議し、その意義や内容について95%の保護者が満足している。					A	A